28日　金曜

使徒

15:30 さて、一行は送り出されてアンティオキアに下り、教会の会衆を集めて手紙を手渡した。
15:31 人々はそれを読んで、その励ましのことばに喜んだ。
15:32 ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、力づけた。
15:33 二人は、しばらく滞在した後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、自分たちを遣わした人々のところに帰って行った。
15:34 【本節欠如】
15:35 パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のことばを教え、福音を宣べ伝えた。
15:36 それから数日後、パウロはバルナバに言った。「さあ、先に主のことばを宣べ伝えたすべての町で、兄弟たちがどうしているか、また行って見て来ようではありませんか。」
15:37 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネを一緒に連れて行くつもりであった。
15:38 しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えた。
15:39 こうして激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行き、
15:40 パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。
15:41 そしてシリアおよびキリキアを通り、諸教会を力づけた。

Bible Reference 聖書の記述

36節からは「第二回伝道旅行」について記されています。これはパウロの個人的な発案でありますが、教会のビジョンで送り出された地域への再訪問ですから、それに沿ったものです。そのようなすばらしい働きではありましたが、そこにでさえ「激しい反目」が生まれました。

バルナバはマルコのいとこでしたが、それ以上に2人の宣教に対する姿勢の違いから来たようです。パウロは困難と厳しさを思い、マルコのためにも同伴は無理と考え、バルナバはチャンスを与えてあげたいと思ったのでしょう。どちらが正しいとは言えない問題です。このように教会には善悪では計れない相違が生まれるもので、それ自体がトラブルというわけではありません。

ここで両者は個人的なプライドや優劣で戦うことはしませんでした。そこで結果的は主のみわざが前進したのです。すなわちチームが二つに増えて、もっと神の可能性が広がったのでした。

違いをむしろ主の前進としてゆくにはどうしたら良いか…これを祈り求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？